



ALPINE CLASSIC CAR RALLY
Official Guide Book

ALPINE CLASSIC CAR RALLY



アルペン・クラシックカー・ラリー

旧き良き時代に製造されたクラシックカーによる本格的なターマック・ラリー（舗装路ラリー）の理解を深め、より日本で普及させるため、ラリー・イベントを開催いたします。また、同時に、ラリー・イベントの運営を担当する事務局を設立いたします。

ラリー・モンテカルロ・クラシック、ラリー・サンレモ、タルガ・タスマニア、イースト・アフリカン・サファリ・クラシックなどの名称が物語るとおり、クラシックカーによる本格的なターマック・ラリーは、すでにWRC / World Rally Championshipやインターコンチネンタル・ラリー・チャレンジなど、世界的なラリー選手権シリーズを盛り上げる重要なラリー・イベントのひとつとして欠かせないものとなっています。

世界的なラリー選手権シリーズを盛り上げるほどの魅力は、どこにあるのか。それは、あの美しいクラシックカーを、ときにはフルスロットルで鞭打ち、ときにはフルブレーキで締め上げ、車輛の現役時代を彷彿させる、大人たちが本気で駆け立てるシーンにあるのではないのでしょうか。

大人たちが味わい深い歴史的な名車を本気で駆るラリー・イベントは、ドライバーなどのエンタラントはもちろんのこと、多くのファンからも支持され、実際にコースサイドで観戦するために現地を訪れる熱心な観客を集めるほどになっています。おかげで、各地で開催されるラリーを観戦するため、新たにラリーを楽しむために出かける旅、ラリー・ツーリズムも芽生え、定着してきています。

ぜひ日本でも、このような歴史的な名車を本気で駆るためのラリー・イベントを育てたいと決断し、ラリー・イベント開催を目指すこととなりました。そこで、WRCやインターコンチネンタル・ラリー・チャレンジなどで活躍するラリー・ドライバー新井敏弘選手の全面的な協力を得て、クラシックカーによるラリー・イベント開催へ向けスタートを切りました。

海外で開催され、実績を上げているクラシックカー・ラリー・イベントの迫力と緻密さに少しでも近づけるため、日本で開催するラリー・イベントでも、ペースノートを使った走行が主体となります。そのため、ペースノートづくり始まり、ペースノートによるコース走行、SS（スペシャル・ステージ）走行などを積極的に取り込んでいきます。

大人たちが本気で走らせる、クラシックカーによるラリー・イベント開催への、ご理解、ご協力のほど、よろしく、お願いいたします。

アルペン・クラシックカー・ラリー大会事務局

大会会長 新井 敏弘（あらい・としひろ）
大会副会長 入川 ひでと（いりかわ・ひでと）
大会事務局長 清水 宗己（しみず・もとき）

A Hot Wind is Blowing

大人たちが、
1973年以前に製造された、
あの美しい自動車を本気で走らせる。

美しい自動車こそ、その秘めたる能力には計り知れないものがある。
とくに、社会的な規制を受ける節目となった1973年以前に製造された自動車こそ、

本気で走らせてこそ本来の真価を発揮する。

ガレージのなかにただ大切に保管していただけでは、
また、埃ひとつない状態に磨き上げて眺めているだけでは、
自動車を愛しているとは決して言えないのではないだろうか。

* 1973年、つまり昭和48年、自動車排出ガス規制が強化された。



In the Stream of Classic Car Rally

世界的なラリー選手権シリーズを盛り上げる、
クラシックカー・ラリー。

WRC / World Rally Championshipやインターコンチネンタル・ラリー・チャレンジなど、最新鋭の競技用車輻による世界的なラリー選手権シリーズを盛り上げる重要なラリー・イベントのひとつとして欠かせないものとなっているのが、クラシックカーによる本格的なターマック・ラリー（舗装路ラリー）である。ラリー・モンテカルロ・クラシック、ラリー・サンレモ、タルガ・タスマニア、イースト・アフリカン・サファリ・クラシックなどの名称が物語るとおり、すでに世界の主要なラリー選手権シリーズのエキシビションとして開催されている。出走するクラシックカーは、個人オーナーが所有するものが多い。しかし、自社のミュージアムで所蔵している歴史の生き証人もいえる名車を、積極的に出場させている自動車メーカーもある。このようなミュージアムでは、いまだに走行可能な状態にある展示車輻も存在し、これらの車輻が製造された当時の性能を保持するためのメンテナンスを実施している。

海外のクラシックカー・ラリーを観戦し、
感激し、そして、考えさせられた。

楽しいイベントとしてのクラシックカー・ラリーは、すでに日本でも数多く開催されている。しかし、残念ながら、本気で腕を競うドライバーの姿もなければ、自動車本来の疾走する勇姿もない。ところが、世界的なラリー選手権シリーズのエキシビションとして開催されているクラシックカー・ラリーを観戦し、考えさせられた。そこでは、安全対策に十分な配慮をしたうえで、持てる能力を最大限に発揮できるような環境に身を置くことができ、ドライバーはもちろん、メカニックも、ラリーを運営する人々も、もちろん、観戦する人々も、すべてが満足していることを実感させられた。できれば、日本で同様のラリーイベントを開催したいと考えた。



Entertainment, Motor Sports & Style

モンカルロでも、タスマニアでも、
熱狂する老若男女がコースサイドに溢れている。

ヨーロッパなどでステアリングを握った経験のある日本人ドライバーは、すでに気づいている。それは、一般道でも、自動車専用道でも、アベレージ・スピードがかなり高いことである。女性でも、年配者でも、実に見事なラインを描きながら、コーナーを抜けていく。もちろん、レンタカーですら、大半がマニュアル・シフト車だ。このことは、彼の地のドライバーのほとんどが、たとえ最小排気量のファミリーユースのための自動車をドライブしているときであっても、自動車の基本的な特性を理解したうえで、持てる能力を最大に発揮させていると思われる。だから、かつて憧れを持って眺めていたラリーカーが疾走するコースサイドには、自動車のことをよく理解した、しかし、ごく普通の人々が熱狂する姿がつねに見受けられるわけだ。



本気で疾走するクラシックカーを観戦する旅、
ラリー・ツーリズムを日本でも定着させたい。

1950年代、60年代、70年代に製造された美しい自動車を愛する日本のオーナーは多い。美しい自動車こそ、その秘めたる能力には計り知れないものがある。とくに、社会的な規制を受ける節目となった1973年以前に製造された自動車こそ、本気で走らせてこそ本来の真価を発揮する。もちろん、実際の自動車は所有することができなくても、興味を持ち、書籍や映像で堪能する愛好家も多い。ならば、古い自動車を本気で駆り立てるラリーイベントがあってもいいのではないか。わざわざ遠出してでも、実車が疾走する勇姿を観戦したいのではないだろうか。そこで、ラリーに参加している競技車両やラリーの風景を堪能するためのラリー・ツーリズムという、まったく新しい旅の満喫方法も提案したいと考えている。



The Rally for Success

本場のラリーシーンで好成績を上げている、あの新井敏弘選手が、大会を運営する。

スバルのインプレッサSTiを操り、WRC / World Rally Championshipやインターコンチネンタル・ラリー・チャレンジなど、世界の代表的なラリー選手権シリーズで好成績を上げている日本人ラリードライバー、新井敏弘選手。2011年のインターコンチネンタル・ラリー・チャレンジでは、PRODUCTION CUP部門のシリーズ・チャンピオンを獲得。最新鋭のラリーマシンを走らせる新井選手も、実は、世界的なラリー選手権シリーズのエキシビションとして開催されるクラシックカー・ラリーの盛り上がりがおおいに気になっていたのである。もちろん、このことは日本でクラシックカーによるラリー・イベント開催を願う関係者にとっても幸運なことであった。早速、新井選手指揮のもと、世界レベルのクラシックカー・ラリーを日本で開催するための検討を開始。新井選手を支えてきたクラブ・チームの強力なサポートも得られることになった。



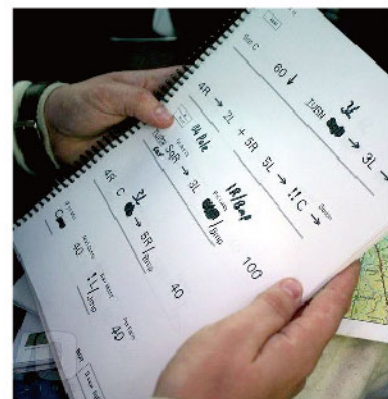
新井 敏弘 Toshihiro Arai

1966年、群馬県生まれ。群馬大学工学部卒業。世界的なラリー選手権で活躍し好成績を残している、日本を代表するラリードライバー。また、2011年には、世界ツーリング選手権日本ラウンドにスポット参戦。ラリー用車輛、パーツ開発、プロモーション活動などを国内外で行っているアライモータースポーツの代表でもある。

ペースノートを駆使し、
ブラインドコーナーを的確な速度で制覇する。

『ラリー』

ラリー / Rallyとは、再び集まる、という意味。安全かつ速く走れるよう改造された自動車を使って行う長距離競技で、決められた走行ルートにおいて、指定されたスピードと時間をクリアできるように走らせ、その誤差に応じて減点方式で順位を決める。ドライバーとコ・ドライバー（ナビゲーター）の2名で競技用車輦に乗り込み、主催者が用意したルートマップをもとに、指定された通過時刻どおりにチェックポイントを通過し、誤差の少ないチームが勝者となる自動車競技である。



『ペースノート』

ラリー走行ルートの途中に設けられているSS / スペシャル・ステージを、より速く、より安全に走りきるために欠かせないのが、ペースノートと呼ばれる自作の走行指示ノートである。主催者側は、ラリー直前にSSを公開し、ペースノートを作成する機会を与えなければならない。そして、参加予定選手と車輦は、SSコース上のコーナリングを開始するまでの距離、コーナーの曲がり具合、ストレートの距離、路面状況など、重要と感じられたあらゆる情報を読み取り、ドライバーの指示通りにコ・ドライバー（ナビゲーター）が記録し、ペースノートを自作する。本番では、コ・ドライバーがこのペースノートを読み上げ、ドライバーが応答しながら最速スピードを目指す。WRCなどの世界ラリー選手権はもちろんのこと、海外の主要クラシックカー・ラリーでも、すべてのチームがこの方式を採用している。



『SS / スペシャル・ステージ』

ラリーで走るルートの途中に設けられているのが、SS / スペシャル・ステージと呼ばれる速さを競う区間。この区間は、ラリー競技車輦が走行する際には一般交通が遮断され、競技車輦は1台ずつ走り、所要タイムによって順位をつける。今回のクラシックカー・ラリーでも、重要な区間となる。



『ヒルクライム』

ヒルクライム区間も、ラリー競技車輦が走行する際には林道コースをクローズ。やはり競技車輦は1台ずつ走り、所要タイムによって順位をつける。



『リエゾン』

SSとSSを結ぶ区間をリエゾンと呼び、ラリー競技車輦も一般車とともに走行する。ラリー競技車輦に対しては、このリエゾン区間の目標となる所要時間が指示されるが、渋滞などに巻き込まれるとタイムロスをしてしまう可能性もあるので、あらゆるケースを想定して走らせる。道路交通法規を遵守して走らなければいけないことは、もちろんである。



『サービスパーク』

ラリーの走行ルートには、競技車輦の整備を行ったり、選手が食事や休憩をとったりするためのサービスパークが設定される。サービスパークには、サポートメンバーが待機し、定められた時間内に競技車輦の修理やタイヤ交換などのメンテナンス作業を迅速に行う。



『群馬サイクルスポーツセンター / サーキットコース』

自転車のプロ競技向けに設計された、国際公認サーキットコース。ヘアピンから高速ブラインドコーナーまでさまざまに変化する全長6kmのコースは、約42mもの高低差がある。このテクニカルなコースを使い、本番用ペースノートを作成するためのレッキ（下見走行）、ペースノートを使ってのタイムトライアル走行を行う。また、本大会前に、この群馬サイクルスポーツセンターにて、新井敏弘選手をコーチとする特別講習会も開催（予定）する。



『新井敏弘選手による、特別講習会』

●本大会前に開催(予定)

クラシックカー・ラリーを堪能したい。
だから、新井敏弘選手をコーチとする、
講習ミーティング、そして、テスト走行に参加する。

ベースノートを作成し、コ・ドライバーが読み上げるベースノートに従って走行する方法に慣れていないドライバーのため、本大会前に群馬サイクルスポーツセンターにて、新井敏弘選手をコーチとする特別講習会を開催(予定)。まずは、ベースノートの作成方法など、ミーティングを受講。引き続き、サイクルスポーツセンター内に設けられているテクニカルなコースを使い、参加選手全員でマイクロバスによるコースの下見を行った後、本番用ベースノートを作成するためのレッキ(下見走行)、ベースノートを使っでの走行など、実践的なトレーニングを実施する。



『講習ミーティング』

講習ミーティングでは、ベースノートの作成方法、使用方法など、新井選手が講師としてすべてを実践的に解説する。世界的な現役ラリードライバーである、新井選手ならではの門外不出のコツなども伝える座学である。



『マイクロバスでコースを試走』

かなりユニークで実践的な、練習方法。新井選手がドライブするマイクロバスに同乗し、実際のコースを走りながら、ブレーキング・ポイント、コーナーへの入り方、クリッピングポイント、抜け出し方、スロットルを開けていくポイントなど、手取り足取り伝授される。世界的なラリードライバーによる実践的な走行テクニックを知ることのできる、とても貴重な機会となる。



『テスト走行』

その後、実際にラリー競技車両をコース内に持ち込み、本番さながらの、ベースノートを作成するためのレッキ、ベースノートを使っでのテスト走行など、実践をタップリと経験。本戦を想定し、徹底して走り込む。



Where to Go Next

海外遠征も、夢ではない。

このアルペン・クラシックカー・ラリーを主催する事務局には、海外のクラシックカー・ラリーについての詳細な情報が用意されている。そこで、新たに海外で開催されるクラシックカー・ラリーを目指すエントリーのために、エントリーから、車両の輸送方法、現地での準備段階、そして、実戦での戦い方などまで、すべて具体的なアドバイスを提供する用意がある。






Photographs by MASARU SUZUKI
A Movie by ALPINE CLASSIC CAR RALLY Organizer

ALPINE CLASSIC CAR RALLY 大会事務局

担当: 片山 健(かたやま けん)
杉谷 陽子(すぎたに ようこ)

Phone:03-5728-7330 / Fax:03-5728-7329

Mail:info@accr-japan.com

〒150-0021

東京都渋谷区恵比寿西1-35-11 代官山タワー #206
株式会社ダブリューズカンパニー内

お問い合わせ、取材、報道につきましては、
上記事務局担当者まで、ご連絡をお願いいたします。

